

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年1月22日  
江別市立大麻泉小学校

1 本年度の重点目標

夢の実現に向け行動する子どもの育成  
～3つのウェルビーイングが実現する学校～

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	<p>○教育目標の具現化を意識し、日常の教育活動を推進することができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲を引き出す教育活動の推進</li> <li>・活動と伸びの「見える化」</li> <li>・表現分野で活躍する児童の育成</li> </ul> <p>目標値：全校で図書貸出1万冊以上、個人60冊以上</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の「できた」「わかった」を実感できる活動場面を増やすため、協働的な学習や体験的な活動を多様に取り入れた。児童同士の対話機会の充実により、多くの児童が進んで課題に取り組み、学習意欲が高まった。</li> <li>・児童の表現作品を各種コンクールや新聞読者欄に投稿し、多くの入賞・掲載作品を産んだ。</li> <li>・活動の「見える化」を意識し、取り組んでいる。体力テストの歴代記録・図書貸出数グラフ等、目標達成状況を掲示することにより、子どもの意欲を高めようと努めた。これにより、自己調整能力の向上にもつながったと考える。</li> <li>・図書貸出1万冊を12/11に達成(例年は、冬休み後2月末に達成)</li> <li>・個人60冊以上、17人達成(1/19)</li> </ul>	A	A
	<p>○学級、学年の枠を超え、「協働体制」に基づくチームワークが発揮されたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員で全校児童を育てる</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校掲示の『学習の基本』最上段に【共通した指導】を掲げた。全教職員は、職員会議や学年部会等で、授業の進め方や指導上の工夫を定期的に共有し、「指導のばらつき」がよいよう努めた。</li> </ul>	A	A

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の躓きや不登校傾向等、児童に関わる情報を、迅速かつ正確に共有、学級担任だけで抱え込まず、複数の教職員で指導や支援を行い、教育効果を高めている。</li> <li>・全学級で授業を公開し、指導法や ICT 活用の交流をすることで、教職員全体の技量の底上げを図ってきた。</li> </ul>		
	<p>【目指す児童像の実現に向けた取組】</p> <p>○自ら気持ちを込めた挨拶をするとともに、継続的に児童に対して指導することができたか。</p> <p>目標値：「いじめがなくなるように進んで考え、行動できている。」95%以上</p> <p>○イズミズム（学習規律）を身に付けさせる指導を行い、子どもが主体の場面を授業に設定することにより、意欲をもって学習に取り組む児童の育成にあたれたか。</p> <p>目標値：話し合いを通じて自分の考えを深めることができている。」85%以上</p> <p>○運動に親しむ機会を意図的・計画的に設定し、運動の楽しさを実感させることができたか。</p> <p>目標値：「自分を伸ばすための努力をしている（新体力テスト）」90%以上</p> <p>○児童が自分のよさを自覚できる場を意図的・計画的に設定し、自己肯定感を高め、相手を気遣うことができるような指導を重ねることができたか。</p>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「挨拶」に始まる「やさしい子どもの育成」については、児童アンケートにおいて目標値に近い高い評価（できたと回答した児童1回目93%、2回目94%）を得ることができた。引き続き、学校や家庭、地域と連携し、やさしい行動ができる児童の育成に努める。</li> <li>・小中共通の学習規律スタンダード（＝イズミズム）の徹底を全教職員で意識し、授業に「対話」を取り入れた授業改善に取り組んだ。児童アンケートにおいて目標値を達成（できたと回答した児童1回目96%、2回目96%）できた。引き続き、授業改善を進める。</li> <li>・運動能力については、取組の結果につながり、多くの種目で全国平均を上回る結果であった。児童アンケートにおいて目標値を達成（できたと回答した児童1回目94%、2回目91%）できた。運動に親しむ生活習慣の定着に努める。</li> <li>・6年生を頂点に、支持的風土にねざした教育活動が展開しており、発達段階に応じた、やさしい言葉が交わされ、楽しく行動できていた。</li> </ul>	△	△
教育課程・学習	○地域や学校の特性を生かし、創意と調和のとれた教育課程の編成・実施・評価を進めることができたか。	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員に、児童が主体となる授業を意識させることで、対話や交流などの場面が日常的になり、学習の質も向上した。</li> <li>・学校行事は、今年度も6年生を中心とした「企画学習」の機会を大切にし、各学年の実態に合わせて、効率よく取り組むことができた。</li> </ul>	△	△

指導			<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の実践を振り返り、特色ある3つの教育「生き方教育」「ことばの教育」「ふるさと教育」をキーワードに、創意工夫を凝らした教育課程の編成に努めていく。</li> </ul>		
	○ICT を活用する等、わかる授業づくりに努め、確実な定着につなげることができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働的な学びの場面での、ICT活用が定着、児童会活動や係活動等で日常使っている児童が育っている。</li> <li>・デジタルドリルは、朝学習や宿題等でフルに活用し、児童の学力の底上げに貢献している。</li> <li>・形成的評価を活用し、児童一人一人の学びに寄り添い、できるようになるまでさせる『やりっぱなしにしない』指導を全教職員で共有する。</li> <li>・児童質問紙調査において、「ICT 機器で文章を作成することができる」（できると回答した児童91.6%、全国比+9.8%） 「ICT 機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができる」（できると回答した児童94.5%、全国比+17.8%）</li> </ul>	A	A
	○児童の実態に沿った校内の研究課題を設定し、理論に基づく実践を積み重ね、教職員としての専門性向上に努めたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校掲示の『学習の基本』最上段に【授業改善】を掲げ、全教職員が①「わからない」といえる授業づくり、②共に学び合う授業づくりに取り組んだ。</li> <li>・全国学力調査や単元テスト、児童アンケートなどのデータ分析をもとに課題を全教職員で共有、授業改善に生かした。</li> <li>・教職員が自らの持つ指導技術を広め、全教職員が実践交流授業に関わり、専門性の向上に努めた。</li> </ul>	A	A
生徒指導	○いじめの未然防止・早期発見・早期対応に組織的に取り組むことができたか。また、児童会活動や学級活動において意図的・計画的な取組を推進できたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動や道徳科において、支持的風土に根差した学級経営に努め児童にとって居心地のいい学級づくりを行っている。</li> <li>・3回の「いじめアンケート」を実施、教育相談の充実を図ってきた。SC、SSW や養護教諭等が互いの専門性を活かし「チーム大麻泉」で、いじめを許さない学校づくり</li> </ul>	A	A

			<p>を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ根絶に向けた児童会の取組も推進している。</li> <li>・いじめの重大事態ゼロ、不登校児度ゼロを継続している。</li> </ul>		
	<p>○児童交流を定期的実施し、『全職員で全校児童を育てる』意識を持ちながら組織的な指導を推進することができたか。</p>	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「全校児童を全教職員で育てる」ということは学校長の経営方針に強く打ち出されているものであり、教職員の意識も高い。職員会議で「児童交流」の機会を設定し、全職員で全校児童の状況（よさや課題）について共有するようにし、効果をあげている。</li> </ul>	▲	▲
小 中 一 貫 教 育	<p>○中学校区の「めざす子ども像」に基づき、大麻東中・大麻東小と連携を取りながら、自校の教育活動を推進することができたか。</p>	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校掲示の『学習規律：イズミズム』に【一貫した指導】を掲げ、9年間を見通して、子どもを育成する意識を共有した。</li> <li>・3校の教職員が、乗り入れ授業や部活動体験、研究授業の参観など、高い意識を持って、共通の目標に向け業務を遂行した。</li> <li>・児童会と書記局合同のリモート挨拶運動、夏休み学習会で中学生が小学生に指導する取組を実施することができた。</li> <li>・合同会議において、各部会で進捗状況を確認しながら、業務推進にあたった。</li> <li>・小中交流の中で、9年間の子どもの成長を小中の教職員それぞれが共有し、手応えを感じる事ができた。</li> </ul>	▲	▲
<p>【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくましがたりないことについては共感する。優しい先生方に囲まれ信頼されて幸せだと思う。</li> <li>・昔と今を比べてしまうけれども、いい子が多いけどもっと自分をだしてもいいのではとも思うこともある。子ども達を多面的に見ていく必要があると思う。</li> <li>・危機管理について。携帯電話が安全上いいと面と危険な面があると思う。どうしたらいいのかわからないが微妙な面もあるが、各フロアにあったほうがいいのではと思う。</li> </ul>					

【評点】 A：よい      B：おおむねよい      C：ややよくない      D：よくない